

事例番号:360290

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 3 日

20:25 陣痛発来のため搬送元分娩機関を受診

20:43 内診時に破水、足位確認と同時に臍帯脱出確認

20:44 頃- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動消失を伴った胎児心拍数 60
拍/分前後の高度徐脈出現

21:20 臍帯脱出のため当該分娩機関へ母体搬送となり入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 3 日

21:46 臍帯脱出のため帝王切開により児娩出、骨盤位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 3 日

(2) 出生時体重:3000g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.81、BE -22.1mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 3 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(チューブ・バッグ)、気管挿管、胸骨圧迫、アドレナリン注射液
投与

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 9 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床の信号異常を認め、低酸素性虚血性脳症の所見

6) 診療体制等に関する情報

〈搬送元分娩機関〉

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名、看護師 1 名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 5 名、麻酔科医 2 名

看護スタッフ:助産師 3 名、看護師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、臍帯脱出による胎児低酸素・酸血症によって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考ええる。

(2) 骨盤位で自然陣痛発来後に破水したことが臍帯脱出の関連因子である可能性が高い。

(3) 臍帯脱出の発症時期は、妊娠 38 週 3 日 20 時 43 分頃であると考ええる。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 陣痛発来の電話連絡に対し直ぐの来院を指示したことは一般的である。

(2) 入院時の内診で児頭が触れず医師へ報告したことは一般的である。

(3) 臍帯脱出時に、酸素投与を実施し、経膈的に胎児の臀部を抑えたことは一

一般的である。

- (4) 臍帯脱出の診断後に母体搬送を決定したことは選択肢のひとつである。
- (5) 当該分娩機関到着から9分後に児を娩出したことは適確である。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (7) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(気管挿管、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与)は一般的である。
- (2) 重症新生児仮死のため当該分娩機関 NICU へ入院としたことは一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

臍帯脱出を認めた場合には、用手的に臍帯還納を行わず、用手経膈的に先進部を上方に挙上し続けて、速やかに帝王切開を行うことが望まれる。

【解説】 本事例では、臍帯脱出が認められた際に、用手的に臍帯を子宮内へ還納していた。臍帯を用手的に子宮内へ還納しようとする、臍帯血管を収縮させてさらに血流を障害する可能性があるため、臍帯還納は行わず、臍帯圧迫が軽度となるよう用手経膈的に先進部を上方に挙上し続けて、速やかに帝王切開による急速遂娩を行うことが望ましい。

(2) 当該分娩機関

なし。

2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

- ア. 臍帯脱出の原因には不明な点が多いが、本事例のように胎位異常や多産婦に臍帯脱出を起こしたとする報告は他にもあり、その因果関係について、今後も症例を蓄積し、調査・研究を継続することが望まれる。
- イ. 臍帯脱出時の対応について、先進部の用手経膣的挙上の有用性は明らかだが、臍帯還納には血流を障害するとの意見もあり、児の予後を改善するのに最適な方法について、今後も症例を蓄積し、調査・研究を継続することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。